

# 4 課

1月28日

## イエスのための<sup>ささ</sup>げ物



安息日午後 1月21日

### 暗唱聖句

わたしに賜わったもろもろの恵みについて、どうして主に報いることができようか。わたしは救いの杯をあげて、主のみ名を呼ぶ。わたしはすべての民の前で、主にわが誓いをつぐなおう。(詩篇 116 : 12~14、口語訳)

主はわたしに報いてくださった。わたしはどのように答えようか。救いの杯を上げて主の御名を呼び／満願の献げ物を主にささげよう／主の民すべての見守る前で。(詩編 116 : 12~14、新共同訳)

### 今週の聖句

2コリント 9 : 6、7、申命記 16 : 17、詩編 116 : 12~18、歴代誌上 16 : 29、マルコ 12 : 41~44、マルコ 14 : 3~9

### 今週のテーマ

什一の他に、諸献金があります。什一が神に返された後、私たちの手元に残る90パーセントの中からささげられ、ここから、寛大さが始まります。神の民の献げ物には、さまざまな種類がありました。神の恵みに対する応答としてささげられる罪の献げ物、神のお守り、健康、繁栄、そして神に支えられていることに対する感謝の献げ物などです。また、貧しい人々への献げ物や、礼拝の家を建てたり補修したりするための献げ物もありました。

私たちへの神の賜物の大きさを考えるとき、私たちは、自分の献げ物がただ駐車場を舗装したり、聖歌隊のガウンを買ったりする以上のものであることがわかります。私たちは、神が私たちのためになしてくださったこと、特にイエスの犠牲に対する応答として献げ物を携えて行くのです。「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです」(1ヨハ4 : 19)。ですから、教会は、どのような規模の教会であっても、私たちの献げ物を神の働きを前進させるために用います。今週、私たちは、地上における神の事業の管理の一環としての献げ物について、聖書がどのように言っているかを学びます。

私たちが神を愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからです。私たちが与えるのは、イエスという、神からの驚くべき賜物に対する応答です。事実、「主は私たちの献金を必要とおられるのではない。私たちの献げものによって神を富ますことはできない。『すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません』と詩編記者は言っている。しかし神は私たちが自分の受けた神の憐れみを他の人々に伝えるために自己犠牲的な努力を払って、その感謝を表すことをお許しになっておられる。これが神に対する感謝と愛を表すことのできる私たちに神が備えられる唯一の方法である」(『祝福に満ちた生活——スチュワードシップに関する勧告』22ページ)。

「私たちの」金銭をイエスに明け渡すとき、その行為は実際にイエスと他の人々への愛を強めます。ですから、金銭は善のための真の力となることができます。イエスは、他のどんなテーマよりも、金銭と富について語ることに多くの時間を費やされました。マタイ、マルコ、ルカによる福音書は、実に6節に1節は金銭について語っています。福音の良き知らせとは、神が私たちを、金銭の誤用と執着から救い出してくださるということです。

**問1** マタイ6:31~34と申命記28:1~14を読んでください。私たちが主に従うなら、神は私たちに何を約束しておられますか。神の約束を主張することは、利己的なことなのでしょうか。

献げ物は、私たちが神のために自己犠牲を払うという意志の証拠です。それは深い霊的体験であり、私たちの人生が主なる神に完全にゆだねられているという事実の表れです。

献げ物は、常に最善を与え、私たちの必要を満たしてくださる人格を持たれた神を個人的に信頼する心から生まれます。私たちの献げ物は、私たちがキリストに救いの確証を見いだしたという確信に基づいています。それは神をなだめることでも、神に受け入れてもらうことを求めることでもありません。むしろ、私たちの献げ物は、信仰によってキリストを恵みと贖いの唯一かつ十分な手段として受け入れた心から、あふれ出るものです。

2コリント9:6、7を読んでください。主は何と言っておられますか。「こうしようと心に決めたとおりに」とは、何を意味するのでしょうか。私たちはどうすれば喜んで与えることができるでしょうか。

**問2** 申命記 16：17 を読んでください。神は、私たちの献げ物の量の基準として、パーセンテージではなく、どのような基準を与えておられますか。

私たちの献げ物は、神の豊かな命、<sup>あがな</sup>贖い、生活の糧、そして絶え間なく与えられるさまざまな種類の祝福に対する認識と感謝の表現です。ですから、上の聖句に記されているように、私たちがどれくらいささげるかは、私たちがどれほど祝福されているかに基づきます。「すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、更に多く要求される」(ルカ 12：48) のです。

**問3** 詩編 116：12～14 を読んでください。私たちは 12 節の問いにどのように答えるべきでしょうか。その答えに金銭はどのように調和するでしょうか。

神が私たちに与えてくださったすべての祝福を、どうやってお返しすることができるでしょうか。簡単な答えは、私たちには決してできない、ということです。私たちにできる最善なことは、神の働きのために、そして、私たちの人類同胞を助けるために、寛大であることのようなのです。イエスは、弟子たちを宣教の旅に送り出したとき、「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」(マタ 10：8) と言われました。私たちの献げ物は、キリストのような品性を形づくることに貢献します。それによって、私たちは利己的な者から愛する者へと変えられ、キリストのように、他者と神の働きに関心を持つようになるのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハ 3：16) ことをいつも覚えておきましょう。対照的に、昼の後に夜が来るのと同じくらい確実に、私たちが自分のために蓄えれば蓄えるほど、私たちの心はより利己的になり、より惨めな気持ちになるのです。

私たちがどのくらいささげるか、また、献げ物の受け取り先を決めるのは、私たち自身です。しかし、主に献げ物を携えて行くことは、クリスチャンの義務であり、そこには霊的、道徳的な意味が含まれています。この義務を怠ることは、おそらく私たちが思う以上に、私たち自身に霊的なダメージを与えることです。

あなたの献げ物とあなたの献げ物をささげる態度は、あなたと神との関係について何を語っているのでしょうか。

聖書は私たちに礼拝行為の順序を示してはいません。しかし礼拝には少なくとも四つの行為が含まれます。新約聖書ではこのリストに、学び／説教、祈り、音楽、什一と献げ物を挙げています。

年に三度、イスラエルの男子（とその家族）は皆、エルサレムで主の前に出なければなりません。そして、「何も持たずに主の御前に出てはならない」（申16：16）のでした。言い換えれば、什一を神にお返しし、献げ物をささげることは礼拝経験の一部でした。過越祭（除酵祭）、五旬祭（七週祭）、仮庵祭のために、神の子らは什一と献げ物を携えて上りました。何も持たずにそれらの祭りに参加することは、考えにくいことでした。

つまり、古代イスラエルにとって、什一と献げ物をささげることは、彼らの礼拝経験の中心を成すものでした。礼拝、それも真の礼拝は、言葉と賛美と祈りで神への感謝を表すだけでなく、主の宮に献げ物を携えて行くことでも表すのです。彼らは献げ物を主の宮に携えて行きましたが、私たちは、（少なくとも什一と献げ物をささげる一つの方法として）安息日に教会に携えて行きます。そして、それは礼拝行為なのです。

**問4 歴代誌上16：29、詩編96：8、9、詩編116：16～18を読んでください。私たちは、ここに示されている原則を私たちの礼拝経験にどのように生かすことができるでしょうか。**

地上での神の事業の管理という責任を負っている神の子として、献げ物を携えて行くことは、特権であり、機会であり、責任です。もし主が私たちに子どもたちを与えてくださったなら、私たちは、安息日学校や教会の礼拝に什一や献げ物を携えて行く喜びを子どもたちと分かち合うべきでしょう。ある場所では、什一をオンラインやその他の方法で神にお返ししています。どのような方法であれ、什一と献げ物をお返しすることは、神との礼拝経験の一部です。

礼拝の一部として什一と献げ物を神にお返しすることは、あなた自身にとってどんな経験になっていますか。この行為はあなたと神との関係にどんな影響を与えていますか。

問5 マルコ12:41~44を読んでください。富んでいようといまいと、この物語は私たちにどんなメッセージを語り、どんな原則を教えてくださいか。私たちはその原則を礼拝経験にどのように生かすことができるでしょうか。

イエスと弟子たちは、<sup>さいせん</sup>賽銭箱が置かれている神殿の中庭にいました。イエスは、献げ物を携えて来る人々を見ておられました。そして、やもめが銅貨2枚をささげるのを見られました。彼女は自分の持っていたもの全部をささげました。「しかしイエスは、彼女の動機を理解された。彼女は宮の奉仕が神に定められたものであることを信じていたので、それをささえるために全力をつくそうと願った。彼女は自分のできることをした。彼女のこの行為は、各時代を通じて彼女の思い出の記念となり、また永遠にわたって彼女の喜びとなるのであった。彼女はささげ物といっしょに心をささげた。そのささげ物の価値は、貨幣の価値によってではなく、彼女の行為の動機となった神への愛とそのみわざに対する関心によってはかられた」(『祝福に満ちた生活——スチュワードシップに関する勧告』205ページ)。

もう一つの非常に重要な点は、それが、唯一イエスが称賛された献げ物であったことです。その献げ物は、まもなくイエスを拒もうとしていた教会、その召しと使命から大きく離れた教会へささげられたものでした。

問6 使徒言行録10:1~4を読んでください。ローマの百人隊長は、なぜ天使の訪問を受けたのでしょうか。彼のどんな二つの行為が天で覚えられましたか。

どうやら、私たちの祈りが天で聞かれるだけでなく、私たちの献げ物の動機も注目されているようです。聖句は、コルネリウスは多くの施しをする人であったと記しています。コルネリウスの心は、献げ物と共にありました。なぜなら、「あなたの富のあるところに、あなたの心もある」(マタ6:21)からです。彼は、イエスについてもっと知る準備ができていました。祈りと施しは、密接に結びついており、神と人々に対する私たちの愛、すなわち、「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」(ルカ10:27)という神の律法の二大原則を示すものです。第一は祈りによって、第二は施しによって明らかにされます。

ある調査によると、人々の資産のうち、流動的で、すぐに献金としてささげることができるものは、9パーセント程しかないことがわかっています。現金、小切手、預金、金融市場ファンドなどは、少なくともその所有者にとっては、一般的に流動的な資産とみなされます。私たちの資産の大部分、約91パーセントは、自宅などの不動産、(もし地方に住んでいれば)家畜、あるいは、その他の非流動的なものに「投資」されています。

流動資産と非流動資産の割合の違いは、二種類のガラスびんに、1000枚の硬貨を入れ、10枚の硬貨がそれぞれの割合を表すことで説明することができます。つまり、小さなびんに入っている90枚の硬貨は9パーセントの流動資産を表し、大きなびんに入っている910枚の硬貨は91パーセントの非流動資産を表します。

ほとんどの人は、小さなびん、つまり流動資産から献金や寄付金をささげます。これは、彼らの銀行口座や財布の中にあるものです。しかし、本当に何かに驚いたとき、その人たちは大きなびんからささげます。聖書は、多くのそのような物語を記しています。

**問7 マルコ 14：3～9 とヨハネ 12：2～8 を読んでください。シモンの家の食卓の主な登場人物はだれでしたか。マリアの献げ物はどれほどの価値がありましたか。なぜ彼女はイエスに香油を注いだのでしょうか。**

マリアの献げ物には300デナリという1年分の賃金相当の価値がありました。それはまさに「大きなびん」の贈り物でした。この出来事の後、ユダは、その三分の一強である銀30枚(マタ26：15)の「小さなびん」の贈り物でイエスを裏切りました。大きなびんの贈り物をするには、真の愛と献身が必要です。しかし、ユダのように欲に目がくらむと、自分の魂をただ同然で売り渡してしまいます。

バルナバの働きと活躍は新約聖書に28回記されています。私たちは彼を、主にパウロのパートナー、また偉大な伝道者として知っています。しかし、これらのすべての基礎は、彼が最初に言及された箇所です。既に確立されていました。使徒言行録4：36,37で、彼はまさに「大きなびん」の献げ物をしています。これは、「あなたの富のあるところに、あなたの心もある」(マタ6：21)というキリストの御言葉のなんと力強い実例ではないのでしょうか。

**なぜ犠牲的な献げ物は、受ける者と同様に、与える者にとっても重要なのでしょうか。**

天の記録の書には、神の家族の経済的な忠実さについて記されています。「記録天使は、神にささげられ、天の宝庫に納められた献げ物の一つひとつについて、さらに、授けられた資産の最終的な使途を忠実に記録しています。神の目は、たとえわずかでも神の働きのためにささげられた献金の一つひとつを、そして、ささげた者が喜んで、あるいは不承不承ささげたかも注視しておられ、その動機を記録しています。神のものを、神が要求されたように神にお返しする、自己犠牲的で聖められた者たちは、彼らの行いに応じて報われるでしょう。たとえ聖別された資産が誤用され、その寄贈者が期待した目的、すなわち、神の栄光と魂の救いという目的に叶わなかったとしても、心の底から誠実に、神の栄光だけのために犠牲を払った者たちは、その報いから漏れることはないでしょう」(『教会への証』第2巻518ページ、英文)。

「神は、その民にその御業の進展のために祈り、計画するよう強く望んでおられます。しかし、私たちはコルネリウスのように、与えるために一致して祈る必要があります。祈りと施しは神の御前に行き、覚えられます。また、行いのない信仰は死んだものであり、生きた信仰なしに神に喜ばれることはできません。私たちは祈りつつ、祈りの成就のために、勤労と資産の両方を、私たちができる限りすべてを与える必要があります。もし私たちが信仰を行動に移すなら、神に忘れられることはないでしょう。神は愛と自己犠牲の行為の一つひとつを記録されています。主は、行いによって信仰を示すところに道を開かれるでしょう」(大西洋連合伝道部会発行『落ち穂拾い』1903年6月17日号、英文)。

### 話し合いのための質問

- ① 祈ることと与えることは、どのように結びついているでしょうか。祈ることは、あなたが何に、いつ、どれくらい与えるべきかを知るために、どのように助けとなるでしょうか。
- ② 米国のある有名な雑誌に、ウォール街で大金を稼ぎながら、とてもみじめで、空しく、不安と心配でいっぱいになっている若手のプロフェッショナルのことが書かれていました。この記事から、与えること、それが犠牲的に与えることであっても、与える者にとって、どれほど霊的に有益であり、私たちが「富の誘惑」(マタ13:22)から解放する助けとなるかについて、どのような教訓を得ることができますか。
- ③ 上記のエレン・G・ホワイトの引用文で、資金が「誤用され」という部分に注目してください。献金する私たちが、彼女のこの指摘を心に留めておくことは、なぜ重要なのでしょうか。

## アーティストを目指す息子からの贈り物

14歳になる息子の英一郎には、夏休みに特別な計画がありました。それは、コツコツと貯めてきたお金でデジタルキャンバスを購入し、絵を描き始めることです。息子は、どのタブレットが自分に最適なのかをネットで入念に調べたり、父親と店に行き実際に見たりしました。同時に、お金を稼ぐ方法も熱心に研究し、簡単なお手伝いでもお金を払ってくれと、私に頼むことさえありました。しばらくして、約5万円のタブレットをオンラインで注文し、数日後、ついに荷物が届きました。彼は、大興奮で荷物を開封し、さっそく絵を描き始めました。それから数日間は、まるでアトリエにこもる画家のようでした。

タブレットが届いてから3日後のことです。息子は驚くべきことを口にししました。「このタブレットを人にあげようと思っている」というのです。彼は、数日前に、教団の伝道局がYouTubeチャンネルに上げた一つの紹介映像のことを話してくれました。エレン・G・ホワイトの『各時代の争闘』に基づいたマンガを、伝道局のミッションチームが描き始めたという内容の映像で、マンガを描いているスタッフが古いタブレットを使っているのを見たというのです。

「もし買ったばかりの僕のタブレットを彼女に使ってもらえたら、きっと今よりずっと仕事がはかどると思う。それに、僕も早くそのマンガを読みたい。今、この思いが神様の御心であるかどうか、お祈りして尋ねているところなんだ」と、息子は言いました。

私はすぐに連絡を取り、マンガを描いている女性スタッフと直接話し、彼女が息子と同じようなタブレットを必要としていることがわかりました。しかし、息子が一生懸命に働いたことを知ると、彼女はためらいました。私が、息子が祈りのうちに決断したことを伝えると、彼女は、「それでは感謝させていただきます」とタブレットを受け取ってくれました。

聖霊様が息子の心に力強く触れてくださったと、私は信じています。タブレットを購入する前は、ほんの少しのお手伝いにも対価を要求するほど、お金を貯めることばかりを考えていました。しかし、聖霊様の働きによって彼の関心は、自分から神様とその働きを成功させることに移りました。今回、息子が神様の呼びかけを聞き、神様の働きに貢献できたことを、とてもうれしく思っています。イエス様がもうすぐ来られることを伝える使命を果たすために召されたら、私たちも素直に神様に従ってまいりましょう。(小原幸子)

